

旗本坪内陣屋跡新加納歴史公園建設

着工！

今年度完成を目指す



イメージ

七年にわたる、まちづくり会の要望努力の成果で、待望の新加納歴史公園整備の大型予算の獲得がなりました。



イメージ

未来に残す新加納の歴史遺産として、庭園風の公園が歴史重点地区の少林寺の南に出現します。公園では回廊をめぐらせ、パネルにより新加納の歴史が学べます。

中山道間の宿
新加納
まちづくりかわら版

第17号

平成30年

6月1日

発行

新加納まちづくり会
会長 小島秀俊
【かわら版編集委員会】



喧嘩みこし

旗本坪内陣屋と新加納



旗本坪内氏新加納陣屋門
(現岐阜市前色上宮寺正門)



新加納地域での坪内陣屋配置

関ヶ原の戦いの戦功により、慶長六年(二六〇一年)坪内利定は四人の息子と共に葉栗郡と各務郡で六千五百三十三石の領地を賜り、新加納に陣屋を築きました。新加納は各務原台地が西方に突き出した先端部に位置し、台地の北、西、南の崖下は水田が広がり防御性の高い地形となっており、戦国時代には織田信長の美濃攻めで、新加納は軍勢の前進基地として利用されており、さらに関ヶ原の戦いの前哨戦の米野の戦い・新加納の戦いでは、石田方の佐藤方政(美濃上有知城主)がここに陣を構えました。こうしたことから新加納は南の木曾川や北の中山道を望む高台の戦略拠点として重視され、陣屋がおかれたと考えられる。陣屋は、約二二〇m四方の広さで東に正門を配置し、周囲には堀と土塁がめぐらされています。また、陣屋の東側には「目」の字状に道路が配され、計画的な町割が行われ、町の四方を神社仏閣が押さえ、城下の町的な町づくりが行われていました。

旗本坪内氏新加納陣屋門(現岐阜市前色上宮寺正門)の四方を神社仏閣が押さえ、城下の町的な町づくりが行われていました。

ホームページ
フェースブック

<http://shikano.main.jp>
<https://www.facebook.com/AinoShinkano/>



墨俣の一夜城の前に造られた！新加納一夜城



新加納一夜城のイメージ

信長が稲葉城を攻めるには、まだ距離があり。前線基地が必要だった。それが歴史的には有名な「墨俣の一夜城」作戦だった。しかし、実は一夜城作戦はその一年前の永禄八年（1565年）に新加納でも実施されていた。その実績を受けて墨俣作戦が断行されたのだ。この話はあまり広く知られていない。信長から稲葉城攻めの前線拠点として、各務原台地の一角である新加納に砦を造るよう命じられた藤吉郎。川並衆の蜂須賀小六、前野将右衛門、坪内利定ら十数人を集めた。「稲葉城下に火を放った隙を突く」秘策によ

り敵方の大混乱を利用して、砦づくりを着手。総勢は千人に達する部隊に膨れあがっていたが、主力を担ったのは坪内衆だった。この日に備え、夏場から砦の資材となる木材を切り出し、加工しており、本番では組み立てるだけ。要するに、プレハブ工法で平島に集積し新加納で組み立てる手法が取られた。堀を掘り、土塁を積み上げ、またたく間に砦が姿を現した。坪内衆はまた、馬防柵などを施すなどして敵の襲撃を持ちこたえることができた。一夜城が構築された場所は、坪内家の菩提寺「少林寺」があるあたりだといわれている。

かくして「新加納の一夜城」作戦は成功を納めた。信長は坪内衆の活躍を褒め、新加納や、松倉など多くの所領を与えた。江戸時代、坪内家は旗本として幕末まで続いていくこととなる。



川並衆とは戦国期、尾張や美濃の木曾川や揖斐川沿いには、川並衆という武装集団が勢力をもっていた。普段は、水運や治水などの仕事に携わっていたようだが、合戦があると、鉄砲などの武器をとって闘うのが常であった。蜂須賀小六、前野将右衛門そして坪内利定が有名である。

「ぎふ進出450年」信長を支えた木曾川武将たち（高橋恒美氏より）

日吉の「カエル」に新しく仲間が増えました

まちづくりの整備の中で、各務原市のご協力もあり。一里塚、ケロット広場、道標、空池と多くのカエルを設置できました。そして 今度、新しく一体ご奉納いただけました、皆様も一度、新しいカエルに会ってください。親カエルに5匹の子カエルが乗っているめずらしいカエル達です。”福カエル”と呼んでください。場所は中山道に面した南の鳥居のところす。



浅野各務原市長へ「要望書」提出



新加納連合自治会、区画整理組合、新加納まちづくり会など合同で、浅野各務原市長へ要望書を提出しました。

【要望の内容】

- 平成29年12月11日
 - ・旗本坪内陣屋跡歴史公園の来年度の完成
- 平成29年3月9日
 - ・新加納歴史地区都市再生整備事業促進
 - ・浜見町公民館に隣接した土地の取得
 - ・新加納駅前広場への防犯カメラ設置